

# 「ホントのフォント」 ユーザーズ・マニュアル (Ver. 1.00)

ワードマクロ研究所 新田順也

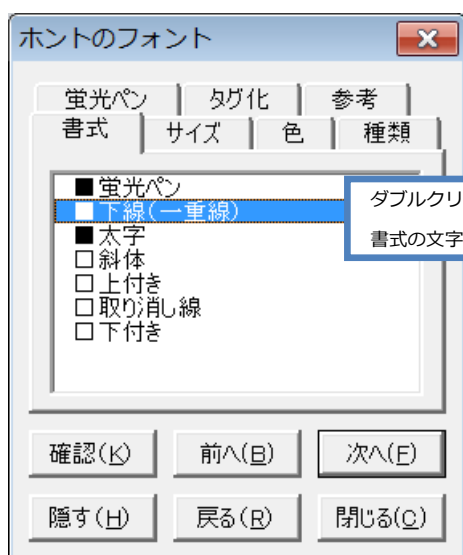
## できること

- ①文書中に使われる書式、蛍光ペン、文字サイズ、文字色、文字の種類などの存在を確認します。
- ②①で見つけた文字にカーソルをジャンプさせます。
- ③書式をタグ化します。

[一括置換翻訳の支援ソフト「ぱらぱら」](#)での上書き翻訳時に、原文中に使われていた日本語文字（または、英語文字）が訳文に混在するかを瞬時に確認できます。

Word 文書からテキスト情報を一時的に取り出す場合、原文中の特定の書式情報をタグ化できるため、テキストファイルと Word ファイルの変換を容易にします。

## 使用中の書式の表示例



ダブルクリックで、該当する  
書式の文字へカーソルを移動

### 2. 「ホントのフォント」を起動

ツールバーまたはアドインタブに表示される「ホントのフォント」ダイアログボックスを表示させます（図 7）。

## 書式のタグ化も自由自在です。

太字・下線の文字

### 2. 「ホントのフォント」を起動

ツールバーまたはアドインタブに表示される「ホントのフォント」ボタン  
「ホントのフォント」ダイアログボックスを表示させます（図 7）。

<u>x<b>2. 「ホントのフォント」を起動</b></u>

ツールバーまたはアドインタブに表示される「ホントのフォント」ボタン  
「ホントのフォント」ダイアログボックスを表示させます（図 7）。

書式の無い文字へ→書式情報はタグ化

## 1. インストール方法とアンインストール方法

マクロテンプレートファイル(mwm\_font\_check.dot)を、Word のスタートアップフォルダに保存することで、このアドインのインストールが完了します。

①Word を終了します。

②同封の「スタートアップフォルダを開く.vbs」をダブルクリックします。



図 1 スタートアップフォルダを開く.vbs

③スタートアップフォルダが開きます。なお、パソコンの性能によっては、スタートアップフォルダが開くまでにしばらく時間がかかることがありますので、ご注意ください。

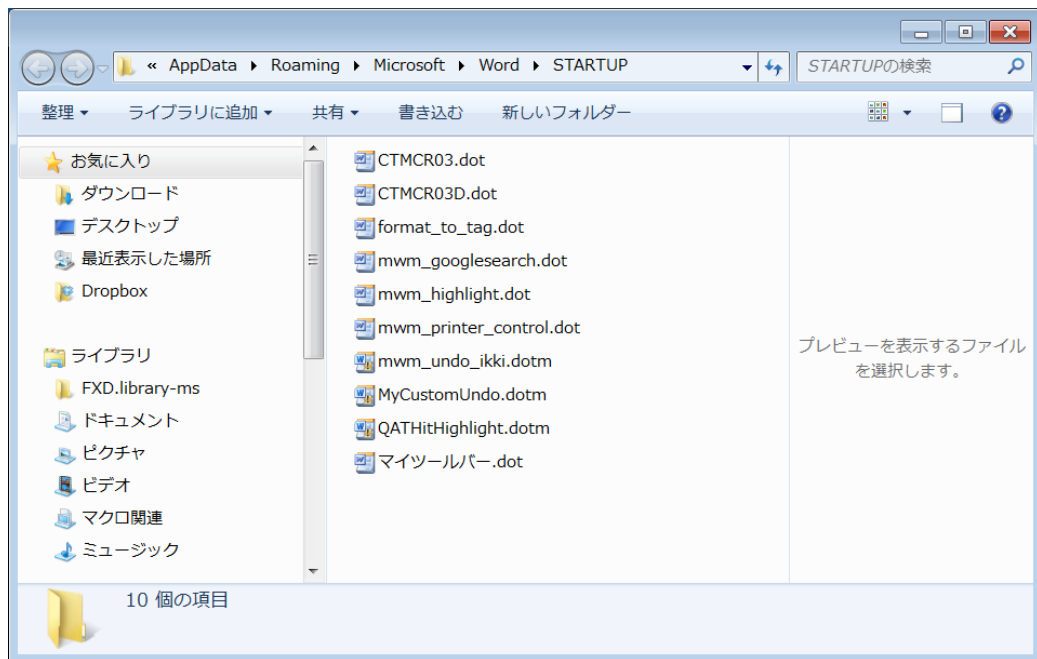


図 2 スタートアップフォルダ(Windows 7 の場合)

④このスタートアップフォルダ(図 2)に、マクロテンプレートを保存します。

**(※アンインストールする場合には、このスタートアップフォルダからマクロテンプレートを削除します。)**

⑤Word 起動後に、ツールバー(または、[アドイン] タブ)に、以下のボタンが表示されれば、インストール成功です。

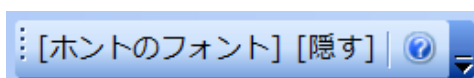


図 3 ツールバーのボタン表示(Word 2003 の場合)

もし、表示されていない場合には、以下の手順で表示させます。

キーボードで、以下の3つのキーを**一つずつ押します**。同時に押さないでください。

**[Alt]、[T]、[ I ]**

すると、「テンプレートとアドイン」ダイアログボックスが表示されます(図 4)。「アドインとして仕様できるテンプレート」欄にて、「ホントのフォント」のテンプレートである「mwm\_font\_check.dot」のチェックボックスをオンにします。

**※:アドインを他にも利用されている方は、「アドインとして仕様できるテンプレート」欄にいくつかのアドインが表示されています。**

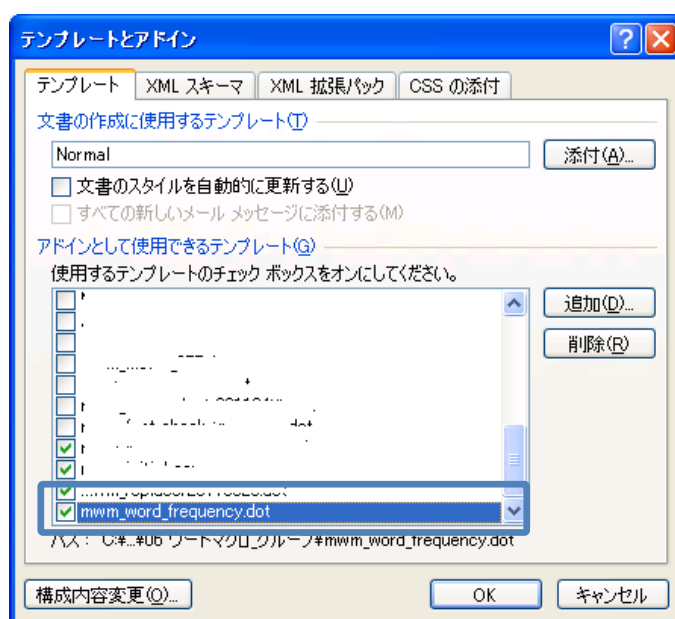


図 4 「テンプレートとアドイン」ダイアログボックスでの設定

次回以降、Word を起動すると、自動的に「ホントのフォント」のアドインがオンになります。

## 2. ユーザー登録方法

「ホントのフォント」のヘルプボタン（図 3 の右側のボタン）をクリックして以下の「ヘルプ」ダイアログボックスを表示します。

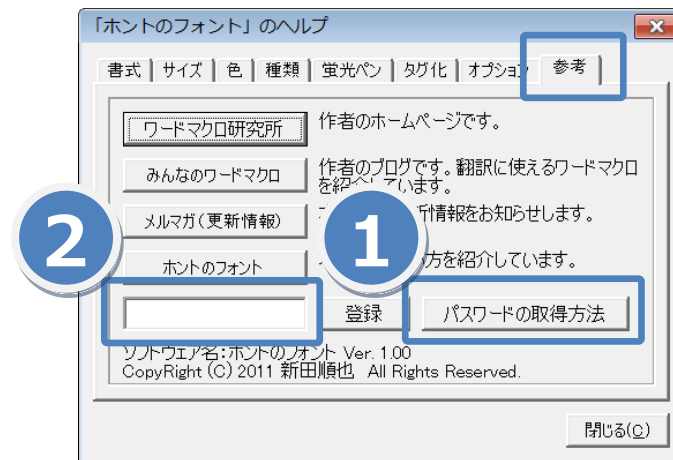


図 5 「ヘルプ」ダイアログボックスの「参考」タブ

①「パスワードの取得方法」ボタンをクリックすると、ユーザー登録のウェブサイトが開きます。ここでご登録下さい。ご入金いただくとパスワードをメールでご案内いたします。

パスワードが発行されたら、②の欄に入力して「登録」ボタンをクリックします。

ご登録をいただかなくても使い続けることはできますが、使われている書式の確認のみができて、以下の画面のように検索用のボタンをクリックすることができなくなりますので、ご注意下さい。

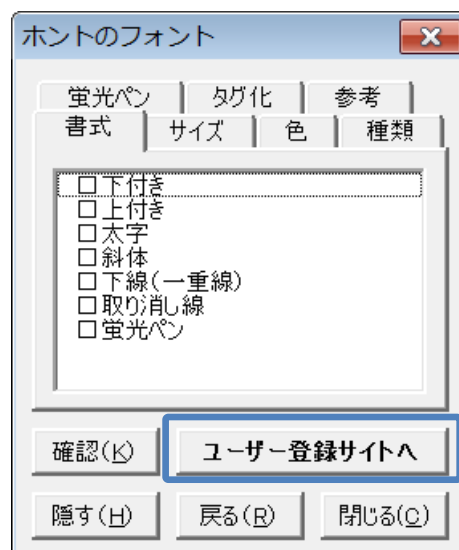


図 6 試用期間終了後のダイアログボックス

## 1. 文書を開きます。

どのような文書でもよいので開きます。

できるだけ書式がたくさん使われている文書の方が、機能を試しやすいと思います。  
適当な文書をお持ちでない場合には、同封の「font\_check\_sample.doc」をお試し下さい。

## 2. 「ホントのフォント」を起動します。

ツールバーまたはアドインタブに表示される[ホントのフォント]ボタンをクリックして、「ホントのフォント」ダイアログボックスを表示させます（図 7）。

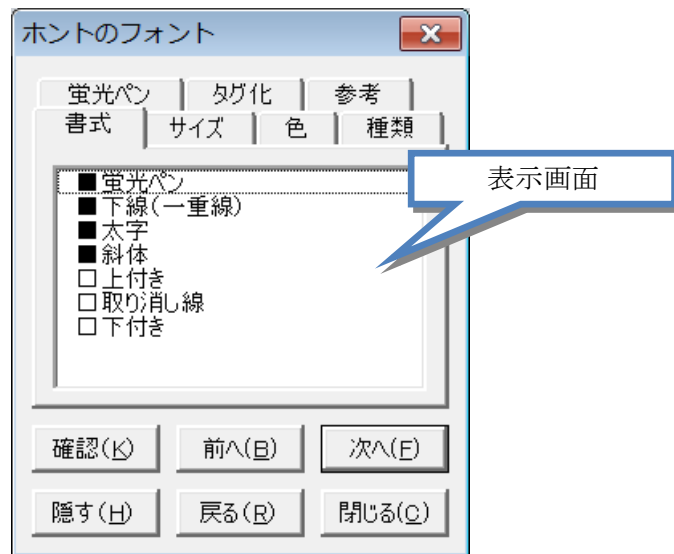


図 7 「ホントのフォント」の起動時の表示例

## 3. 操作をします。

- ・ **表示画面**の語句をダブルクリックすると、そのフォント情報を持つ文字列へジャンプします。
- ・ **「戻る」ボタン**をクリックすると、カーソルが「ホントのフォント」ダイアログボックスを開く前に置かれていたカーソルの位置に戻ります。
- ・ 語句を1つ選択して **「次へ」ボタン**や **「前へ」ボタン**をクリックすると、そのフォント情報を持つ前後の文字列へ1つずつカーソルを移動できます。

## 4. ご使用上のヒント

### 1. 起動時にチェックする項目の選択

大きな書類の場合、フォント確認に時間を要します。よって、起動時に全てのフォント情報を確認しようとする、「ホントのフォント」ダイアログボックスの表示に時間がかかってしまいます。

そこで、図 8 の「ヘルプ」ダイアログボックスの「オプション」タブにて、起動時にチェックする項目を選択することができます。

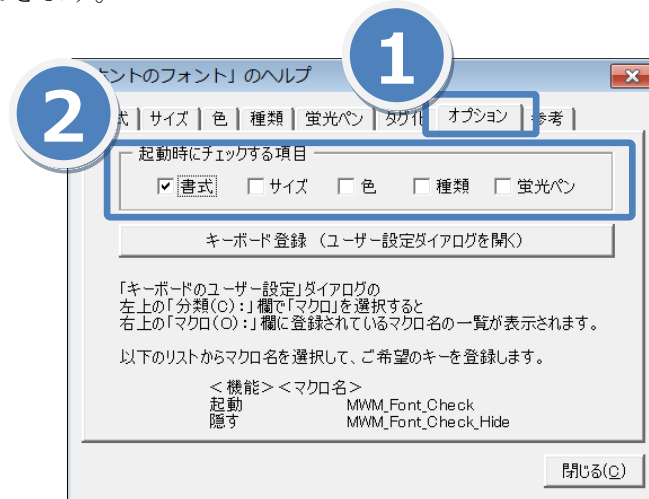


図 8 「ホントのフォント」の「ヘルプ」ダイアログボックス

### 2. ダイアログボックスを隠す

大きな書類の場合、フォントの確認に時間を要します。しかし、「ホントのフォント」ダイアログボックスを閉じてしまうと、せっかく調べたフォント情報が失われてしまいます。

そこで、一度調べたフォント情報を保持するためには、「隠す」ボタンを押して、一時的に「ホントのフォント」ダイアログボックスを隠して下さい。ダイアログボックスを再度表示させるためには、ツールバー（もしくは、リボンの「アドイン」タブ）の「ホントのフォント」ボタンをクリックしてください。

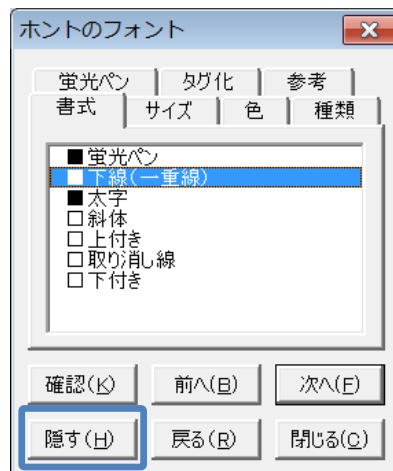


図 9 「ホントのフォント」ダイアログボックスの「隠す」ボタン

### 3. キーボードへの割付け

プログラムをキーボードから実行できます。便利です。

頻繁にご利用になる方、ぜひ、キーボードにマクロの実行を割付けてみてください。

図 10 の「キーボード登録」ボタンをクリックして下さい。

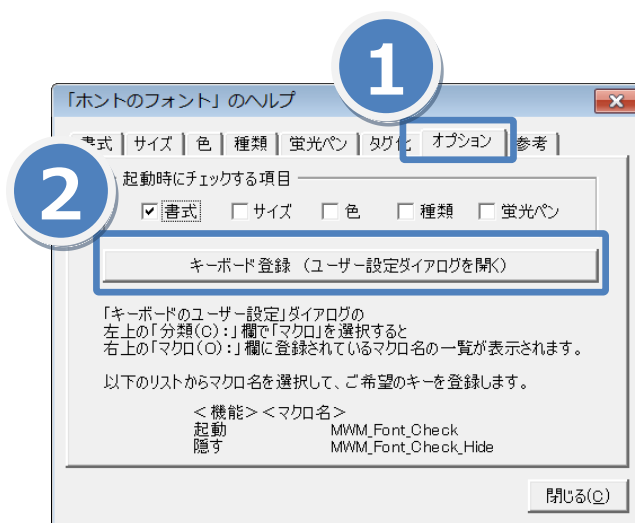


図 10 キーボード登録のボタン

詳細は、ウェブ上の[こちらの記事](#)をご覧ください。

## 5. その他の関連情報

### ▼作者の関連サイト

- ・「ホントのフォント」説明サイト <http://ameblo.jp/gidgeerock/entry-10578171838.html>  
本アプリケーションの使い方を紹介いたしました。
- ・「頻度のヒント」説明サイト <http://ameblo.jp/gidgeerock/entry-10989979139.html>  
文書中の語句の使用頻度を調べるアプリケーションです。
- ・ばらばら オフィシャルサイト <http://www.para2translation.com/>  
一括置換翻訳の支援ソフト「ばらばら」の使い方の解説、ユーザー登録などができます。
- ・ワードマクロ研究所 <http://www.wordvbalab.com/>  
ワードマクロを用いた仕事のデザイン方法を提案しています。プログラミングの勉強会も随時開催しております。
- ・みんなのワードマクロ ブログ <http://ameblo.jp/gidgeerock/>  
ワードマクロに関する情報（マクロテンプレート、プログラムのコードと解説、書籍紹介、ウェブサイト紹介など）を公開しています。
- ・右クリックで Google ! <http://www.word2websearch.net/>  
Word 用の無料アドインです。Word 文書から右クリックで Google のオプション検索ができます。ユーザー登録もできます。是非ご利用下さい。

### ▼メルマガ

【みんなのワードマクロ】メルマガ <http://www.mag2.com/m/0001007563.html>  
マクロテンプレートの更新情報や上記ブログの内容を月に1回発信します。

### ▼作者連絡先

新田順也 ご連絡は、[こちら](#)のフォームよりお願いします。

### ▼著作権について

「ホントのフォント」のユーザーズ・マニュアルおよびソフトウェアの著作権は、作者である新田順也が所有しています。

ソフトウェアの無断配布、無断転売を禁止いたします。